

令和2年度秋田県公立高等学校入学者選抜

一般選抜学力検査問題 社会

1.歴史総合

昨年度から歴史が最初に出題されるようになった。やや難しい問題はあるが、全体的には標準的な難易度で落ち着いた。

- (2) 正しい年代に並び替える問題。毎年のように出題されている形であるが、前後関係をきちんと理解できていなければ正答は難しいだろう。

難易度はやや高め。

- (5) 資料と地図をもとに記述する問題。琵琶湖が水運に用いられていたことを読み取れるかがポイントとなる。

難易度は高め。

- (6) 江戸時代の政策について答える問題。4つの改革の特徴などをしっかり確認しておきたい。難易度は標準的。

- (7) 銅が長崎に運ばれていた目的を記述する問題。鎖国時の貿易についてどれだけ理解できているかがポイント。

難易度は標準的である。

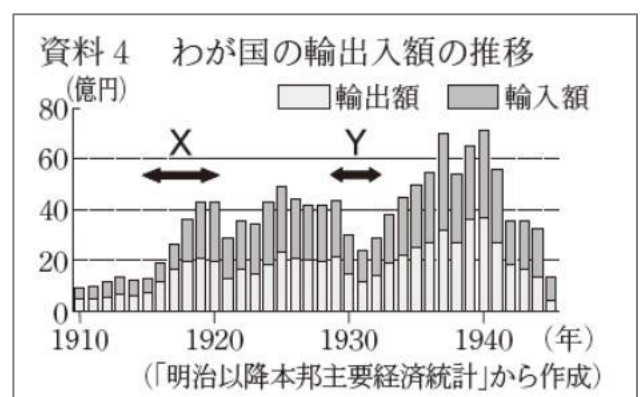
- (10) それぞれの時期における日本の様子を答える問題。大戦景気については度々出題されているので、時期もしっかり覚えておきたい。

難易度は標準的。

地図



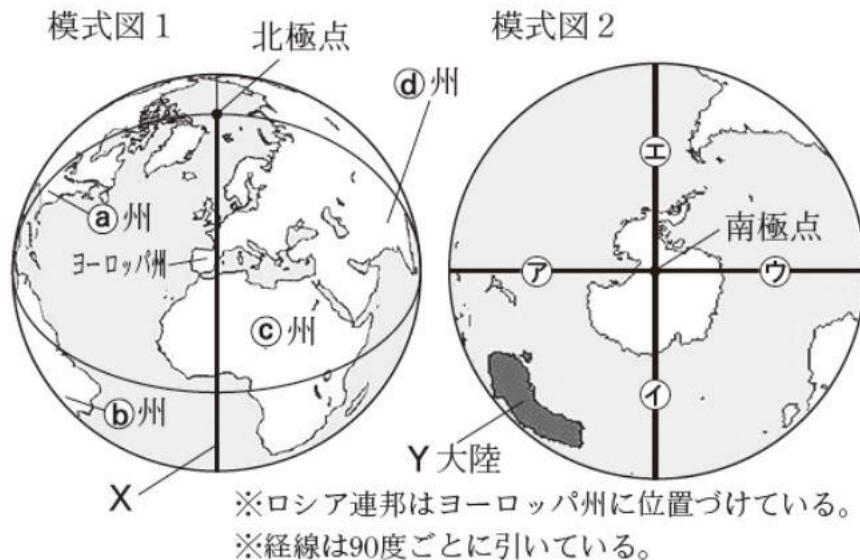
- (11) 適切な語句を記述する問題。財閥解体の目的や、その後何が起こったか等をしっかり理解している必要がある。難易度は高い。



2.世界地理

地図をメインにした出題はよく見られる形であるが、記述等難しめの問題が多いのも相変わらずである。難易度はやや高め。

- (1) 経線についての問題。南極視点の地図は実力テストなどでは度々出題されているが、慣れていないと難しいと思われる。難易度は高め。



- (2) 表から正しい州を選ぶ問題。それぞれの州の大まかな特徴を掴めているかが問われる。難易度はやや高い。

- (4) ②輸出品目を答える問題。先進工業国の主要な輸出品を理解できているかがポイントである。難易度は標準的。

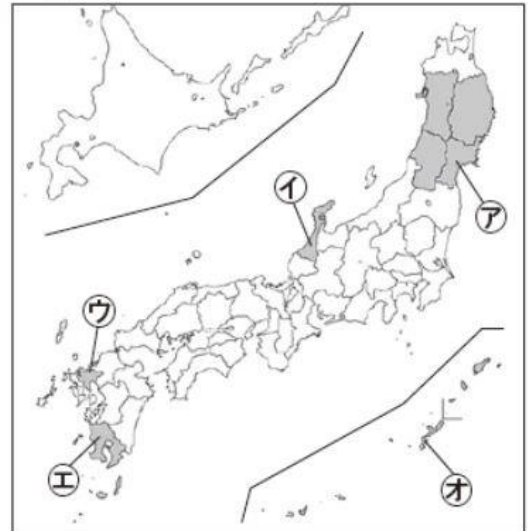
③適切な内容を記述する問題。NAFTA や EU の加盟国について理解しているかがポイントである。難易度はやや高め。

3.日本地理

世界地理に続いて日本地理が来るのも例年の流れである。資料を読み取るタイプの記述問題は思考力が必要であるためなかなかの難問である。難易度はやや高め。

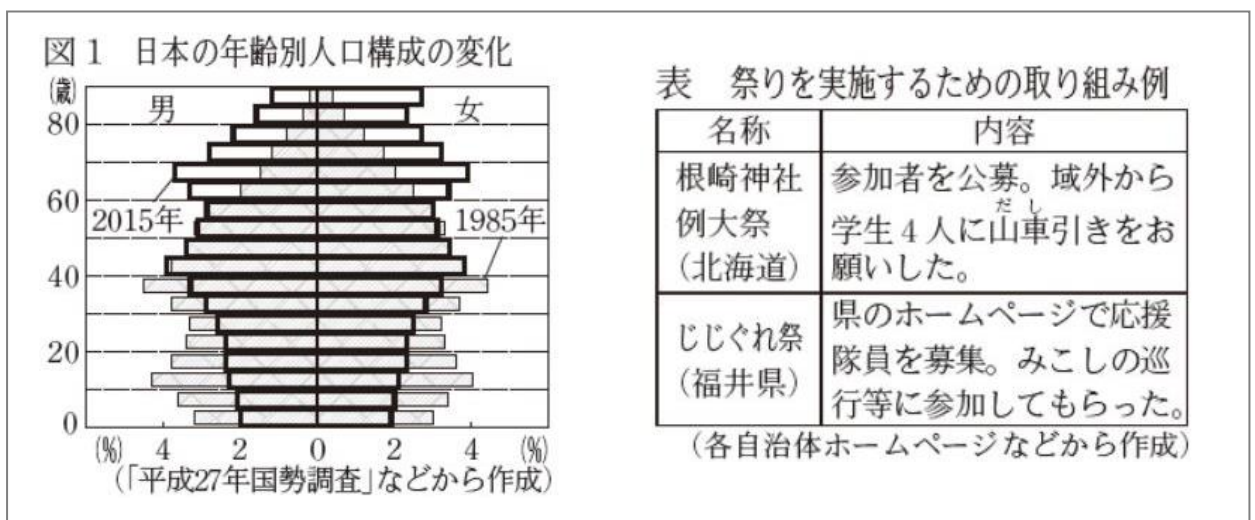
- (2) 世界遺産とその所在地の正しい組み合わせを選ぶ問題。国内の主要な世界遺産の位置はしっかり覚えておきたい。
難易度はやや高め。

地図



※●は、来訪神の行事がユネスコの無形文化遺産に登録された8県を表す。

- (3) 図と表から読み取れる内容をもとに記述する問題。秋田県入試の地理ではお馴染みの問題である。読み取れる内容を問題文に合わせてまとめていく必要があり、一筋縄ではいかない問題である。難易度は高い。



- (4) 適切な内容を記述する問題。気候的な特色を背景として考える必要がある。
難易度はやや高め。

4.公民総合

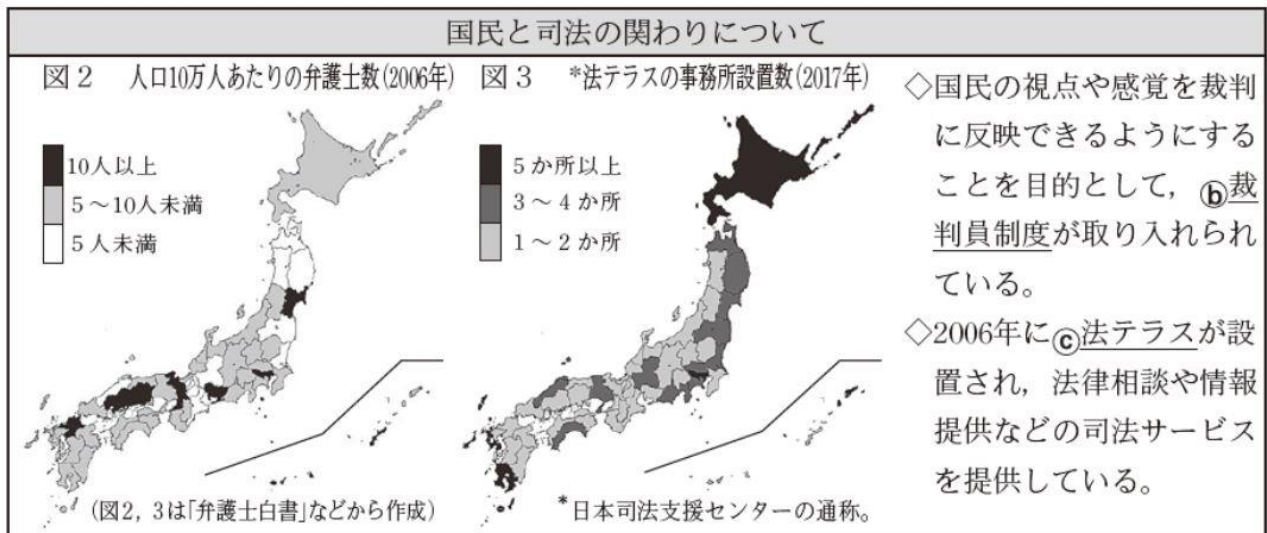
公民は例年通りの総合問題であった。特に教科書の終盤の内容は確認が甘い受験生が多いので注意したい。難易度は標準的。

- (3) 売買契約に関する問題。合意という言葉を抑えることができるかが問われた。
難易度はやや高め。



- (4) 裁判員の役割についての問題。

- (5) 法テラスの目的に関する問題。資料から法テラスの数の特徴を読み取れるかがポイントである。難易度はやや高め。



- (9) 国連の機関に関する問題。主要な組織名と目的を理解できているかがポイントである。公民でも最後の方に出てくる所であるため、しっかり暗記しておきたい。難易度は標準的である。

- (10) 正しい州を選ぶ問題。アジア・アフリカ会議など歴史的な背景に関する理解が必要である。難易度はやや高い。

- (11) か、き. 正しい用語を記述する問題。どちらもここ数年よく出てくるようになった言葉である。難易度は標準的。